

山形県こども会議 2025

YAMAGATA KODOMO MEETING

開催レポート



山形県では、「こどもまんなか山形」の実現のため、こども・若者の皆さんの意見を聴き、皆さんが意見を表明する場として「山形県こども会議」を開催しました。



意見はどうなるの？

今後の山形県の施策の参考とするほか、産業・教育・金融・労働・行政など各分野の方々とも共有し、明るい山形県の未来をつくるために活用します。

会議のテーマ

- ★あなたが望む山形県像(こんな山形になればもっと子育てしやすくなるなど)
- ★こんな山形であれば住みたい!
- ★そうなるためにはどんなことが必要?

事前勉強会

会議のテーマについて、学び、考える場として事前勉強会を開催しました。参加した皆さんで意見を出し合いながら、一緒に考える大人(ファシリテーター)も参加し、皆さんの考えをまとめるサポートをしました。

村山地区

令和7年7月29日(火)13:30～
やまがたクリエイティブシティセンターQ1(山形市)
参加者10名(小学生4名、中学生1名、高校生5名)
ファシリテーター:稲村理紗さん

最上地区

令和7年7月31日(木)13:30～
万場町のくらし(新庄市)
参加者6名(高校生6名)
ファシリテーター:吉野優美さん

置賜地区

令和7年8月5日(火)13:30～
旧長井小学校第一校舎(長井市)
参加者2名(小学生1名、高校生1名)
ファシリテーター:末永玲於さん

庄内地区

令和7年8月1日(金)13:30～
酒田駅前交流拠点施設ミライニ(酒田市)
参加者5名(小学生2名、高校生3名)
ファシリテーター:藤川かん奈さん

①アイスブレイク



まずはみんなでアイスブレイク!お互いのニックネームを呼び合って緊張をほぐしました。

②山形県の現状を学ぶ



こども基本法について学んだ後、グラフやデータを通して、山形県における「人口減少の現状」や「子育てを取り巻く状況」について学びました。

③意見交換



山形県の現状について考えたことや感じたことをふせんに書き出し、参加者同士で意見交換しました。

④振り返り、まとめ



こども会議の本番に向けて、学んだことや考えたことを各自で振り返り、まとめました。

参加者の声

- はじめはとても緊張した
- みんなの色々な意見が聞きたい!
- 「こども基本法」についてはじめて知った
- こども会議に向けてしっかり自分の意見を考えてきたい!

参加者の声

- どんな問題が人口流出につながっているのだろうか?
- 山形の魅力をアピールできていないのではないだろうか?
- 「家事・育児＝女性の役割」という思い込みはないだろうか?
- 子育てしやすい環境って?

「山形県おとな会議」も開催しました!

”こどもを支える大人が幸せになることが必要だから、「山形県おとな会議」もした方がいい”

令和6年に開催した「山形県こども会議」において出された意見がきっかけで生まれた「山形県おとな会議」。子育てをしている皆さんから、「こどもまんなか山形」の実現のため、理想の山形県像やそのために必要なアクションなどの意見をお聞きました。



令和7年7月3日(木)13:30～ やまぎん県民ホール練習室1(山形市)
参加者8名 ファシリテーター:伊藤こず恵さん

参加者の声

- こどもたちが一度県外に出ても「戻ってきたい」と思える環境や、若者・子育て世代が活気のある街であることが必要ではないか?
- 子育てで孤独を感じない環境や、地域一体となった子育て支援があると良いと思う
- こどもの好きなことや興味を見つけるきっかけとなる体験を提供してあげたい
- 「山形県おとな会議」のように、自分の意見を表明したり他の人の意見を聴くような機会を見つけて、参加してみたい
- 多様な教育支援制度や子育てにおける経済的な支援が充実してほしい

山形県こども会議

事前勉強会をふまえて、皆さんのアイデアやおもいを聴く場として開催しました。皆さんからいただいた意見は、「こどもまんなか山形」実現のため、これからのこども・子育て施策に活用されていきます。

令和7年9月6日(土)13:30～ スタートアップステーション・ジョージ山形(山形市)参加者17名(小学生7名、中学生1名、高校生9名)
ファシリテーター:稲村理紗さん

①アイスブレイク



学年・学校も様々なメンバーが集まりました。まずはミニゲームをして緊張をほぐし、意見発表に臨みました。

②意見発表



参加者一人ひとりが、「住み続けたい山形県」と「そのために必要なこと」についてそれぞれ意見を持ち寄り、発表しました。

③意見を選ぶ



みんなの意見をファシリテーターが「人口減少」「子育て」「その他」の3つの柱に分け、それぞれから「より共感する意見」を選びました。

④グループワーク(Aグループ)



3つのグループに分かれて、みんなの共感が集まった意見についてさらに意見交換をし、考えを深めました。

⑤グループワーク(Bグループ)



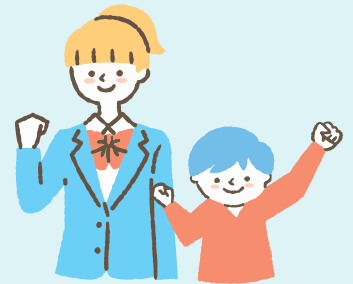
⑥グループワーク(Cグループ)



⑦まとめ、振り返り



最後は全体で、山形県に届けたい自分たちの意見やアイデアを振り返りました。



参加者の声

- 色々な視点から意見を聞くことができ、自分の考えも変わった
- 普段思っていた悩みを話し合えて嬉しかった
- もっとこうした交流の機会がほしいと思った

- 未来の山形について想像し意見交換することができた
- 「会議」と聞いて緊張したし難しそうと思ったけれど、楽しかったし、他のみんなも参加してほしいと思った

こんなアイデアが 出ました

- 自分が学んだことやスキルを山形で活かせる場所があるといい
- 育児を取りやすい(子育てに理解がある)職場環境づくりが必要
- 学ぶ場、働くところ、遊ぶところがあれば山形に暮らし続けられるのでは？

- 色々なイベントに参加できる機会
- 山形で学べることを増やす
- 「子育ては当たり前」という雰囲気
- ジェンダー平等の実現
- 勉強するところ、遊ぶところを増やす
- 交通の便を良くしてほしい

～「県民まんなか」みらい共創カフェ～ 知事への報告会を実施しました！

9月に実施した「山形県こども会議」をふまえ、こども会議参加者の代表が、「こどもまんなか山形」に向けた意見やアイデアを吉村知事に届けました。

令和7年10月16日(木)16:45～ 山形県庁 知事室
参加者8名(小学生3名、高校生5名)



吉村知事に参加者それぞれが意見を伝え、知事と一緒に記念撮影「住み続けたい山形」について意見交換をしました。

参加者の声

- 自分たちの意見を直接知事に伝えることができとても良かった
- こども会議に参加したみんなは、年齢も学校も住んでいる場所も様々だったけれど、一つのチームのように感じられるくらい打ち解けることができ、とても楽しかった
- 私たちの意見が県の取組みに反映されてほしいと思う

参加者の皆さんから出た意見と 山形県的主要な取組み

子育てに理解のある山形県であれば住み続けたい！

意見

- 家事や育児の負担が女性に偏りがち。男性が家事や育児に参加しやすい仕組みや意識を広める必要がある。
- 子育ては、他人ごとではなく「自分ごと」として社会全体が変わる必要がある。

主要な取組み

- 新婚世帯や子育て世帯を対象とした「共家事(ともかじ)・共育(ともいく)」の促進に取り組みます。
- 地域で子育てを支える環境づくりとして、シニア層(高齢者)による「他孫(たまご)育て」に取り組みます。
- 山形で子育てをする家庭を社会全体で応援するため、「やまがた子育て応援パスポート」事業や「地域みんなで子育て応援団」の活動に取り組みます。
- 「やまがた子育て応援サイト」で、妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援に関する情報発信を行います。



参加者の皆さんからいただいた全ての意見と関連する詳しい山形県の取組みについては、「山形県こども会議2025 報告書」にまとめています。

🔍 山形県こども会議